

GRIT

救急医学講座 高須 修

grit という言葉をご存じだろうか。2 年程前に、書店で “GRIT, The Power of Passion and Perseverance” (Angela Duckworth ペンシルベニア大学心理学部教授著、「やり抜く力」神崎朗子訳) という本を購入し、深く学んだ言葉である。この本の著者である Angela Duckworth が、2013 年の TED talks で行った同じタイトルのプレゼンを偶然見ていたので、非常に興味をそそられる言葉であった。

「誰が成功するのか」、「成功のカギは何か」をテーマに取り組んできた Angela Duckworth によれば、「人生で何を成し遂げられるか」は、生まれ持った才能 (IQ score) よりも、情熱と粘り強さによって決まる可能性が高く、やり抜く力が重要な因子となるそうだ。(著者はこの研究により米国の Genius Award (天才賞) と称される MacArthur Fellows Program マッカーサー賞を受賞している。) grit とは、「超長期目標に向けた情熱や忍耐力」、「やり抜く力」であり、瞬発的な熱心さや夢中な姿ではなく、「一つの事にじっくりと長い間取り組む姿勢」のことである。この grit は固定されたものではなく、内からも外からも変える (伸ばす) ことができるという。

今年も医師国家試験の合格率が話題となったが、医学部生にとって国試合格は、入学時の「超長期目標」でも「最上位の目標」でもないことは明らかである。入学時に医療・医学への「情熱」とまで言えなくとも、「理想」や「憧れ」、少なくとも「関心」は抱いていたはずである。大学入学後もその情熱や理想、超長期目標を保っていただろうか。これは学生への問いであるとともに、講義や実習を通して「情熱を与え続ける」、「明確な目標を与える」ことが求められる自分への問いでもある。

医学教育のあり方が大きく変わりつつある。教育方法やシステム、学習支援の環境は、我々が学生であった頃と比べると十分すぎる程整えられつつある。Angela Duckworth の著書「GRIT」には「やり抜く力」を伸ばすための様々な興味深いアプローチ法が述べてあるが、本書を読みながら、久留米大学の医学部生のさらなる力 grit を引き出すには、まず、教育を行う我々自身が、情熱をもって医療、医学、そして教育に取り組み続ける姿を見せること、そして学生が「最上位の目標」、「究極の目標」をしっかりと持続できる経験を与える工夫 (動機の持続性) が、最も重要なことかもしれないと考えさせられた。